



発行 理互学部書局
編集 理互学部書局

歯斗委諸君の誤った方針 による国交設定を弾劾する

日大の至りの学長諸君、とりわけ理互学部斗争委員会に結集する進歩的学長諸君!!

我々は昨日の歯斗委諸君の行なわつとした国交に対し徹底的に理論的攻撃を行はつたが、その国交のもつ犯罪性を暴露し我々なりに糾弾しねばならない。一九六三年日大我輩が「ナード斗争」は、もろく学部としての孤立性を打ちやぶる学部的な展開を以て由英斗に結集したからこゝろ大衆的英力斗争として発展してまゝののではない。たとするならばたとえ学部国交をもつてつて位置づけをいかに、たののではないかと、敵、下学労働会古田及勤理事員が我々に対し何らぼろいした態度を行つて出づつくる現時点において、理事員の下部組織である教授長と国交をもつ事は何の斗争の勝利的發展にはならぬ英斗内部における分裂策動としてしか意味をもたないのではないかと。

歯斗委諸君は「この国交による内部組織の強化をさる」となると言つたが、この破壊的・大衆引き回しの国交によつてこの組織強化をさると言つたが、この破壊的・大衆引き回しの国交によつてこの組織強化がなし得ないのなら斗争の根本原則である所の、歯斗委諸君の組織論をうたがひがらざるを得ないではないか。

我々は学部国交を考ふる所には、斗争の曲直をさるるく用極する中、英斗の組織運動展開の一端として實質的、具体的は斗いとして行なわねばならぬ。

- × 現状打開のうーせ
- ・中核体は、理論式表を強化せよ!!
- ・斗争者は、クラス・サークルをもちだせ!! (組織化)
- ・生協、自治会、学連等について具体化への討論を!!
- ・クラスにおけるサロニ化現象を否定し創設の討論を!!

「自主カリキュラム」
 土曜日 6:00~7:00
 川田洋一 科学論
 火曜日 2:00~4:00
 三上 社会思想 (現代文化出版社)
 ※ 講義書 > 600円
 講義書 < 200円
 現代文化出版社
 現代文化出版社 (保題)
 現代文化出版社 (保題)

斗争委員会第一戦線の方針性 個別斗争から全人民的政治へ 果題へ

個別斗争から全人民的政治へ、我々の一九六〇日大斗争の最終目標は、主体的の内存在が主舞の目標とされて来た。内存在と言ふ事は、我々の階級的主張を立つた方針のイデオロギイを貫徹し具体に自らのものとしていくことである。一九六一年日大斗争を提起するならば、社風に於ける一つの大きな権威の場である日大。つまり日本帝國主義社風に於ける帝國主義支配機構である日大、その最上層を敵の帝國主義的改竄された日大古田体制における人際問題から英斗の対外的矛盾を三つとする形をとり、我々も個別斗争ではあるが、この教育の帝國主義的改竄された古田体制を打破する斗いは、帝國主義者の代弁者である任職政治学部長にしては意図せざるものがあるのは当然である。が問題は学生、主体的側として日大斗争の本質を把握し支配者イデオロギイである、ブルジョア的観念を崩壊し、被支配者側のイデオロギイを構築していくが我々の大きな課題となつて来る。

何れに、被支配者側のイデオロギイを貫徹せねばならぬ、のか、それを斗争の過程でどの様に構築して来たかである。

〈連載小説〉(1) 道 (保題) 著者 天下 太平

まだ九月半であるのに街角から街角に吹ける風は、下着を脱いで肌を冬のにおひを知らせる程の冷たさであった。毎朝、毎夕、この〇駅ホームは風社にせせとかがやうもの何の目的もなく、何の使命感もない、空塵を一日と曇り、妻や子供、弟に身体を寄り添う大人ども、その大人どもが、うじ虫がはうまうとホームの階段をのぼり、こい、あるものは新婚ほやほやで、昨夜の妻のおくもりをまだわすれず、思ひだしてはやくやくとある。また、あるものは、性能力をこしなつた夫に、ほげいどくしみのまろく相をぶらめたる妻の顔を見ては、はあはあとして、人の顔を見てゐるもの。また、堂々とスロウ新聞をおしひろげている大人も、れば新聞のかけから女の人のしりをさわるもの、朝晩は毎日、毎日がよりなく続く……

電車のかつ風を空間と、むせかえる様は靉々として、まんじながら、自分の内臓からこみ上げてくる革命的の勇氣に、口のすまでも無感覚となりながら、耐えている男がいた。目をつねり、両手のつりねに身体重をまかせ、電車揺れる方角に、すまの様に流れていく。

この風、道徳が、この朝露の主人である。